

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	ディルク・クレメンス・ギュンター Dierk Clemens Günther
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
History in Robert E. Howard's Fantastic Stories: From an Age Undreamed of to the Era of the Old West and Texas Frontier			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授	大地 真介
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	吉中 孝志
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	今林 修
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	文学研究科・名誉教授		田中 久男
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、アメリカ文学史において単なるパルプ・フィクションとして軽く見られがちなロバート・E・ハワード (1906-1936) の小説で従来見落とされてきた重要な点を指摘することにより、ハワードの再評価を試みる研究である。同論文は、ハワードが、ファンタジー文学で初めて作品中でリアルな疑似歴史を構築し、また、彼の出生地のテキサスの歴史を作品に巧みに取り入れていることを、彼の主要作品を取り上げて論証している。</p> <p>論文は、2部構成であり、序章と終章に加えて全部で7章からなる。まず、第1部 “Robert E. Howard's Creation of an Authentic Pseudo-History” の第1章 “Robert E. Howard's Alternative History of the Picts” では、ハワードが、実際にブリテン島北部に住んでいた古代民族ピクト人を登場させてもっともらしい疑似歴史を作り上げたことに着目し、第2章 “Atlantis and Its Influence on Howard's Creation of a Pseudo-History” においては、ハワードが、ピクト人の物語をアトランティス大陸の伝説と結びつけることによってさらに古い疑似歴史を構築していることを論じ、第3章 “Robert E. Howard's Historical Short Stories” では、ハワードが、ハロルド・ラムに倣って歴史小説を一時期書いたことにより、リアルな登場人物を創造できるようになったことを明らかにしている。</p> <p>第4章 “The Hyborian Age: Howard's Creation of a Fictive Age and Pseudo-History” においては、“The Hyborian Age” というハワードの随筆のいくつかの草稿を照らし合わせることにより、ハワードの代表作「キムメリオス人コナン」シリーズの舞台であるハイボリアン時代をハワードが創造した過程について論じ、第5章 “Howard's Pseudo-History in the Context of Secondary World Building in Fantastic Literature” では、ウィリアム・モリス、E・R・バローズ、J・R・R・トールキンとハワードを比較検証することにより、ハワードがリアルな疑似歴史を初めてファンタジー文学に持ち込んだことを丁寧に論証している。</p> <p>第2部 “Robert E. Howard and the History of Texas” の第1章 “Robert E. Howard and His Relation to the Old West and Modern Texas” においては、ハワードが、自分が生まれ育ったテキサスの古い歴史を “Old Garfield's Heart”, “Wild Water” などの作品で取り入れていることを指摘し、第2章 “Texas History in Robert E. Howard's Fantastic Stories” では、ハワードが創造したハイボリアン時代がいかにフロンティア時代のテキサスの暴力の歴史の影響を受けているかを論じている。</p> <p>論述の繰り返しが散見され、また、逆に説明不足のところもあるが、先行研究をきちんと踏まえた</p>			

うえでオリジナルな見解を論理的に展開しており、ハワード研究やアメリカ大衆文学研究を大きく前進させた論考として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)